

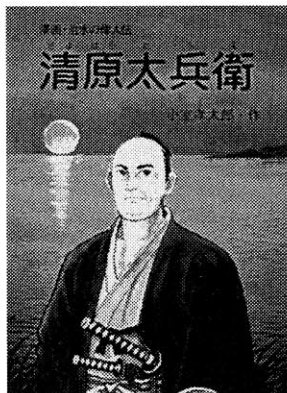
自分たちの町を、地に足着いた日々の営みを大切に思う暮らしの中から、少しずつ地域が変わってきている。食品の安全や環境に対する組合員の関心を活動の基礎に置く鳥取県生協。郷土の先人たちの足跡をさまざまな形で残し、次代につなぐこととする島根県の人々の試み。二十世紀へのカウントダウンが始まった今、山陰各地で躍動感あふれる動きが続いている。



現代によみがえった「清原太兵衛」の物語。写真は漫画版

# 「郷土の偉人」を発掘

## 一村一志運動を提唱 HNS研究所が伝記



この「一村一志運動」もその一環。事業者を募り、地域に貢献した先人の活動を、小説、児童文学、漫画の形で広く紹介し、これからの社会を考える一助としていく。

これまでに登場したのは「清原太兵衛」と「周藤彌兵衛」。ともに江戸時代、島根の地で水害から人々を守るためにすべてをかけて尽力した人物で、「清原太兵衛」は鹿島町が合併四十周年記念事業として製作したもの。原作（小説）は一般公募され、遠く北海道からも問い合わせがあったという。

時の流れに埋もれた郷土の人々を掘り起こそう――松江湖南テクノパークにある「HNS（人間・自然・科学）研究所」（松江市乃木福富町）が展開しているユニークな「一村一志運動」。これまでに、二人の「偉人」の伝記出版が実現している。

同研究所は地元企業、小松電機産業㈱の小松昭夫社長が設立。現代社会の行き詰まりを打開するため、人と自然、科学の関係を一から見直すことをテーマに掲げている。

いでしょうか」と話す。今後、賛同者を募り、全国展開していきたい考えだ。

HNS（人間・自然・科学）研究所は☎〇八五二（二二）八四一〇。